

不祥事防止研修会実施報告（第10回）

学 校 名	三次市立田幸小学校
研修テーマ	交通事故・交通違反・飲酒運転の根絶について
研修担当者	指導部 佐藤 志保
研 修 日 時	令和4年12月22日（木）15：30～15：45
参 加 人 数	9名
実 施 形 態	講義・協議
使用資料等	○「不祥事防止のための校内研修事例集（増補版）～校内研修手法編」（島根県教育委員会） ○「不祥事防止研修資料 交通違反・交通事故」（埼玉県教育委員会）
研修の概要	① 飲酒運転に係る事例検討（ランキング法） ② グループで問題点，未然防止策を交流。 ③ 近年の法改正について確認。 ④ 各自が研修を終えた振り返りを書く。
研修を終えての 気付き等	○定期的に事例をもとに考えを確認することが大切。飲酒するときには、そのあとのことまで考えて、段取りをしておく必要がある。 ○飲酒すると分かっているときは最初から車で行かないようにする。運転中は、スマートフォンの操作なども行わないようにする。 ○車を運転する際は、強い意志をもつことが大切だと思った。飲酒したらどうなるかと想像力を働かせることが大事ということが印象的で、納得した。誰もが想像力を働かせ、その後どういうことが起こるか考えることができれば、不祥事もなくなっていくと思う。 ○聞きなれた言葉だが、「乗るなら飲まない，飲むなら乗らない」など，交通違反をしないように心がけたい。 ○たとえ少量でも飲酒したら運転しない，運転者にお酒を勧めない，人から勧められてもはっきり断るなどの意識をもっておく必要がある。 ○コロナ禍以前は忘年会等で飲むなら車は運転しない，宿泊施設を利用するなど，厳しく言われていたが，近頃は同僚で飲酒をする機会もなく，飲酒に対する意識も弱くなっていると思うので，このような研修で改めて飲酒運転について考えることができた。 ○飲酒運転は本人だけでなく，家族や職場など，周りの人の人生も狂わせてしまうことを自覚しなければいけない。特に教職員は子どもや保護者，地域からの信頼もすべて失ってしまうことや信頼の回復には莫大な時間と労力が必要となることも自覚しなければならない。